

中生代

講師

渡来 めぐみ

今回学ぶこと

古生代に続く中生代は2億5200万年前から6600万年前までの期間です。古いほうから順に三疊紀^{さんじょうき}、ジュラ紀^{じゅらき}、白亜紀^{はくあき}に区分されています。地層や化石の記録を調べると、当時の海洋や陸上の様子を知ることができます。比較的温暖な中生代には、恐竜などの新たに出現した生物が繁栄しました。古生代末の大量絶滅を経て、再び多様化した中生代の生物について理解を深めましょう。さらに、中生代の終わりに繁栄した生物が絶滅した原因を探り、地球環境がどのように変化したのかを推測しましょう。

番組を見る前に知っておこう

超大陸

……大陸は数億年という長い年月をかけて、合体と分裂を繰り返している。約3億年前には各大陸が合体して、パンゲア（ギリシャ語ですべての陸地を意味する）と呼ばれる超大陸が形成された。大陸分布の変化は、地球の気候変動と大きく関係し、生物の進化に影響を及ぼす。

テーマ 1 中生代の生物

古生代末に起こった大量絶滅の影響が続き、三畳紀の中頃まで、海洋動物の種類は少ないままでした。その後の地層からは多くの種類の化石が見つかるようになり、生物の多様性は再び増加していったと考えられます。海洋ではアンモナイトやたくさんの種類の二枚貝、魚竜や海生ハチュウ類の首長竜くびながりほうなどが生息し、繁栄しました。それらの中でも、イカやタコの仲間である頭足類のアンモナイトは、世界中の暖かい海に生息した中生代を代表する海の生物です。その殻に見られる縫合線ほうごうせんと呼ばれる模様は時代とともに複雑化し、種数は1万種にも及びます。そのため、地質時代を細かく区分する示準化石として用いられ、離れた地域の地層を比べることに役立ちます。

テーマ 2 恐竜の世界

恐竜は、三畳紀にハチュウ類のあるグループから出現したと考えられています。エオラプトルなどの原始的な恐竜は小型でしたが、ジュラ紀と白亜紀を通して、その多くが大型化し、様々な陸上環境に適応して進化しました。肉食で二足歩行をするティラノサウルスや植物食で四足歩行を行う大型のアパトサウルスをはじめ、1000種類以上が報告されています。また、陸上植物についても、白亜紀の中頃からはそれまで繁栄していた裸子植物に変わり、花を咲かせ、実をつける被子植物が台頭しました。このように、古生代に上陸を果たした生物は、中生代に更なる進化を遂げました。

